

★シラバス(学習の手引き)★

令和 5 年度版

Abashiri Kaiyo High School

教科	地理歴史科		学科	普通科	学年	2	年	選択科目		
科目	日本史探究				単位数	2	単位			
使用教科書		高校日本史(山川出版社)			副教材	最新日本史図表(第一学習社)				
学校教育目標		高い志を立て、自己を練磨し、社会に貢献する人間の育成(立志・練磨)								
育成を目指す 資質・能力	基盤的学力	◎	協働力	○	論理的思考力	◎	傾聴力		課題解決能力	○
	表現力	○	判断力	○	考察力	◎	情報活用能力	○	コミュニケーション能力	
	基礎的読解力		創造力	○	洞察力		継続力		行動力	
	自己管理能力		共感力		自己実現力		復元力(折れない心)		自己肯定感	
学習の到達目標		・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究する。								
		・グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質・能力を育成することを目指す。								
		・諸資料からわが国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。								

★評価規準	A: 十分満足できる	B: 概ね満足できる(基準)	C: 努力を要する
★単元ごとの評価規準	原始・古代		★4月～7月までの学習内容
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	
縄文時代から平安時代までの歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	縄文時代から平安時代までの歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	縄文時代から平安時代までの歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	★何で評価するか ・定期考査 ・ワークシート	★何で評価するか ・行動観察 ・ワークシート ・振り返りシート	

【学習計画】

月	単元	学習の目標(評価の観点:評価方法)
4	・ガイダンス ・第1章 日本文化のあけぼの ・文化の始まり ・農耕の開始	・人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。
5	・第2章 古墳とヤマト政権 ・古墳文化の展開 ・飛鳥の朝廷	・地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ・ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ・古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。 ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。
6	・第3章 律令国家の形成 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・律令国家の文化 ・律令国家の変容	・律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。 ・律令体制の完成期としての奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的にとらえて考察する。 ・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。
7	・第4章 貴族政治の展開 ・摂関政治 ・国風文化 ・荘園の発達と武士団の成長	・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 ・律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。

★単元ごとの評価規準	中世	★8月～10月までの学習内容	自己評価	実際評価
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	観点	観点
院政期から鎌倉時代までの歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	院政期から鎌倉時代までの歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	院政期から鎌倉時代までの歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	①②③	①②③
★何で評価するか ・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	★何で評価するか ・定期考査 ・ワークシート	★何で評価するか ・行動観察 ・ワークシート ・振り返りシート		
8	・第5章 院政と武士の躍進 ・院政の始まり ・院政と平氏政権	・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ・政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。		
9	・第6章 武家政権の成立 ・鎌倉幕府の成立	・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ・鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。		

10	・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化	・モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する。
----	--	---

★単元ごとの評価規準 中世			★11月～12月までの学習内容		
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	自己評価	実際評価	
室町時代の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	室町時代の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	室町時代の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	観点	観点	
① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③
★何で評価するか	★何で評価するか	★何で評価するか			
・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	・定期考査 ・ワークシート	・行動観察 ・ワークシート ・振り返りシート			
11	・第7章 武家政権の成長 ・室町幕府の成立 ・下剋上の社会	・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ・琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 ・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。			
12	・室町文化 ・戦国大名の登場	・武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。			

★単元ごとの評価規準 近世			★1月～3月までの学習内容		
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	自己評価	実際評価	
室町時代後期から江戸幕府成立までの歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。	室町時代後期から江戸幕府成立までの歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	室町時代後期から江戸幕府成立までの歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	観点	観点	
① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③
★何で評価するか	★何で評価するか	★何で評価するか			
・定期考査 ・小テスト ・ワークシート	・定期考査 ・ワークシート	・行動観察 ・ワークシート ・振り返りシート			
1	- 第8章 近世の幕開け ・天下人の登場 ・豊臣政権と桃山文化	・銀の交易や鉄砲とキリスト教の伝来を、大航海時代の展開に関連させて世界史的視野で考察し、中世から近世への時代の転換を理解する。 ・豊臣政権の村落や都市の支配、対外政策から、中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。			
2	- 第9章 幕藩体制の成立と展開 ・江戸幕府の成立 ・江戸初期の外交と文化	・江戸幕府が法や制度の整備の下で、経済的にも軍事的にも圧倒的な力で全国支配を実現し、幕藩体制を確立したことについて理解する。 ・幕府がキリスト教禁教と「鎖国」政策を展開した要因について考察し、「鎖国」の意義と「鎖国」体制下の四つの窓口を通じた対外関係を理解する。			
3	・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化	・17世紀後半から18世紀前半の江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ・新田開発や農業技術の進歩により、農業生産がめざましく発達したことを、具体的事例をもとに考察する。			

★最終評価総括(自己評価/実際評価)					
①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度	自己評価総括	実際評価総括	
① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③	① ② ③

◎前期振り返り	◎後期振り返り	備考